

第2回生駒市総合計画審議会（第二部会）

開催日時 平成28年7月28日（木） 13：30～

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員） 久委員、大原委員、楠下委員、中山委員

（事務局） 石畑市長公室次長、坂谷政策企画推進課長、

岡村政策企画推進課課長補佐、日高政策企画推進係長、高松政策企画推進係員

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】 開会宣告、配布資料確認

以下、発言要旨

№． 343 地域美化・環境衛生

【久部会長】 不法投棄が増えているということは、ごみ有料化で捨てに来る人がたくさんいたということなのか。

【事務局】 パトロールの回数は以前は週1回であったが、ごみ有料化に伴って週2回としたことにより件数が増えた。ただ、不法投棄のごみの撤去量については、昨年からは減っている。

【久部会長】 進捗度については行政の進捗度がC、我々4人もCということで、進捗度はCでよろしいか。

（異議なし）

№． 344 上水道

【久部会長】 私個人の進捗度はAをつけさせていただいた。その理由は、もう上水道もかなりいろんなことに取り組んでいる。ここから何をすればAになる

のかというところがもう一つピンと来なかった。

【楠下委員】 この指標で判断する限りは、久先生のおっしゃるとおり、しっかり取り組んでおられると思う。ただ、例えば天災、地震が来たときの本当に安全な水が送れるかどうかや、安全性であるとか今後の整備についてはまだまだいろいろ計画的にやっておられる途中である。今後の余地としては、水道管を更新していったり、より安全に水を供給する、少々の地震でも大丈夫なように対策をしておくというようなことがこれから大事かなど。その辺の余地があるということで進捗度はBにさせてもらった。

【中山委員】 確かに災害時の水と電気の供給は重要である。

【久部会長】 上の進捗度になるためには何を創意工夫、努力しないといけないかということをお審議会の委員、それから市民、そして担当課がやっぱり共有をしておいた方がいいと思う。そのために、今年度、来年度こう頑張りますというところが、いわゆるPDCAになっていくのである。それでは進捗度について、行政はB、審議会の方はAが1人、Bが3人であるが、皆さん進捗度はBでよろしいだろうか。

(異議なし)

No. 351 自然的資源

【久部会長】 私はこれに関しては、仕事で一緒させてもらっている部分が多いのだが、いかんせん開発が進めば緑が減る。非常にこのあたりが厳しいというか、ただ市民緑地制度も作っていただいているので、努力はかなりしてくださっていると思っている。

【楠下委員】 生駒市に来られる主な理由といえば、やはり都市近郊にしては緑が多いしゆったりしている。そういう風土が好きだということで生駒市に来ていただける方は多い。この緑地の確保面積の割合のバランス、それをどうとるかというのはやはり課題である。

【中山委員】 住宅を買ったときに、環境保全費というのは徴収されるのが条件で、年に何回か払うことがある。自治会費と一緒に環境保全費も払い、草刈り等に充てている。

【楠下委員】 マンションでも管理費はあるので、それも環境保全の1つの仕組みであ

る。

【久部会長】 それでは進捗度について、行政の進捗度がB、我々も4人がBということで、部会としての進捗度はBでよろしいか。

(異議なし)

No. 352 公園・緑化

【楠下委員】 コミュニティパーク事業については、萩の台で久先生が関係して取り組まれていたと聞いている。これについては、住民の関心が非常に高くなったと思う。やはり自分たちの公園を自分たちでいろいろ変えていこうという意識でいろんなアイデアが出てきているので、非常に有意義だと思う。

【久部会長】 緑の懇話会ではいつも言っているが、これだけいい制度なのに、2年に一度、1カ所しかできない。とてもいい制度なので、もうちょっと頑張っていたらと思う。

【楠下委員】 そういった公園があることによって、近隣の方々のコミュニケーションの機会になり、地域の安心・安全にもつながってくると思う。したがって、久先生が言われたような、自分たちの公園づくりをして、さらに皆さんで集まって話し合いをすることが地域活性化の1つの要因になると思う。

【楠下委員】 このコミュニティパーク事業は、提案したことが実際できあがった後、公園の管理は市民がやるのか。

【久部会長】 市民がやっている。一番初めの第1号は光陽台の中央公園だったが、今では毎年、花と緑のまちづくりコンテストで金賞を取っていて、年中、花がいっぱいである。

それでは進捗度について、行政の進捗度がB、我々もBということで、進捗度はBでよろしいだろうか。

(異議なし)

No. 511 学研都市

【楠下委員】 奈良先端科学技術大学院大学は、世界的な研究機関で、かなり高度な研

究開発をやられているので、生駒市とどう連携するかというところで難しい面があると思う。大学のホームページを見ていると、地域協働のコーナーがあって、やはり、いろいろなイベントをやったり、オープンキャンパスを毎年されている。また、生駒市の中学校と連携した教育等で大学として地域に少しずつ影響を及ぼしていこうという姿勢が見える。やはり非常に高度な研究をやられているが、少しずつ市民が内容を知っていけば、地域とのつながりも深まってくるのではないかなという気がする。

【久部会長】 環境エネルギー研究だと地域密着型の研究になるので、例えば地域がそういうモデルを受け入れていただいて、実証実験の場所になってもらうというのも官学連携の1つの可能性としてはあるのかなと思うが。

【楠下委員】 環境関係の市民活動に関心のある方は多いので、そういう方々といろいろな情報交換をするきっかけづくりになるかもしれない。

【久部会長】 大学との交流は、コーディネーターがしっかりと動いていただくと、いろんな可能性は広がっていくと思う。ご相談いただける窓口があって、その人がちょっとアイデアを出して、コーディネートしてくれる。こういう機能があれば、いろんな可能性があると思う。

それでは進捗度について、行政の進捗度はC、審議会はCが3人、Dが1人ということになっているがいかがだろうか。進捗度はCで決定してよろしいか。

(異議なし)

No. 521 農業

【久部会長】 地道に着々と成果は上げていらっしゃるかなという印象ではあるが、みなさんいかがだろうか。

【楠下委員】 指標にあるように新たに就農される方が増えている。ここがかなりいろいろ仕掛けをされた結果だと思うが、こういう若い就農者が増えることによって生駒ブランドのようなものが生み出せれば、これは非常に値打ちがあると思う。それから生駒ブランドの地産地消を進めていこうということで、いろんな環境のイベントなんかでもそういった出店をされ

て、生駒ブランドの米とかいろんな豆等を一生懸命PRされている。生駒の場合は大規模農法は難しいかもしれないが、小規模であっても自分たちの住んでいる周りで少しでも野菜とか花を栽培して、自分たちで消費していく、こういうやり方は生駒の場合は合っているんじゃないかなと思う。

【大原委員】 農業をやっておられる方はどうしても少ないイメージがあったが、品評会には結構みなさん出しておられる方が多い。

【楠下委員】 今の農家の方は、自分の食べる分は作るけれど、別に売ってまで作る気がない。しかし技能自体は持っておられる。そういう技能をもっと市民に教えていただいて、生駒で広げていったらおもしろいと思う。

【久部会長】 また、高齢化に伴って跡継ぎがいなく、手放すという問題もやはり多い。そういう意味では、もっと農家がおしゃれだと言って若者が就農できるような雰囲気にしていくという対策が必要になる。

【事務局】 作業着等のファッションショーをしたり、就農に向けてPRはしている。

【久部会長】 それでは進捗度について、行政はB、我々4人もBなので、進捗度はBということよろしいか。

(異議なし)

No. 531 企業立地

【楠下委員】 指標を見ると、少しずつ新規雇用者数も増えているし、認定事業者数も増えている。だから、少し回復の傾向はあるということかと思う。そういった周辺の特徴を生かした企業立地の推進をしていただければ、さらによくなるのではないかなと考えている。

【久部会長】 企業誘致というと、どうしても機械を動かして物を作る工場を呼んでくるという話にしかなくてない。もうそういう時代ではないと思うので、もう少しバリエーションを増やしていくような創業支援の方がいいのではないか。情報産業であったり、いろんな可能性はあるわけで。

【大原委員】 インキュベーションセンターを駅前だけでなく、高山サイエンスプラザの空き部屋の中に作るという案もあるのではと思う。

【久部会長】 少し具体的な話をすれば、ああいうサイエンスプラザみたいなところと

というのは、どちらかという、もう20年前の姿だと言える。なぜこう
いうことを言うかという、今、地方創生で注目されている地域の1つ
に、徳島県の神山町がある。神山町は、あの自然豊かなところで情報産
業の仕事をしたという人が集まってきている。産業基盤でなく住む地
域として魅力的なところに人は移りたがる。だから、町の魅力が勝負に
なっている。そういう意味で言うと、こういうものづくりの産業の
ときは道路が必要だが、それとは違う魅力で人を呼び込んで、その人が
みずから仕事も持ってくる、何かそんな時代に入ってきたなという感覚
がある。今のところは工業団地を追いかけていかざるを得ない方向にな
っているが、頑張っていたきたいと思う。

それでは進捗度について、行政の進捗度はB、それから部会はBが3人、
Cが1人となっているが、進捗度はBでよろしいか。

(異議なし)

No. 532 商工業

【楠下委員】 商工会議所がやっておられるどんどこまつりの時のにぎわいづくりであ
るとか、高山学研都市でのイベントであるとか、市民参加という意味で
は、かなり増えてきている。

【大原委員】 若手なり新しい人たちが、少しずつ起業し、まちおこしをしていってほ
しいと思う。

【久部会長】 頑張っていらっしゃる方々はどんどん頑張ってくださいているが、その
輪をどうやっていろんな市民に繋いでいけるかというところが、これか
らまた勝負かなと思う。具体的に言うと、もっとシニアの人にも起業を
やっていただきたい。素晴らしいキャリアを持ってリタイアされた方が
生駒市にはいるだろうから、そういう方がまた60歳以上になっても一
旗、二旗上げられるような、そういうことで起業が増えてきたらいいな
と期待している。

【中山委員】 九条の商店街では店舗の時間貸しをしておられる店がある。普段はアイ
スクリーム屋をやっている店舗で、水曜日だけそこで天ぷらのお店を出
したり、日によって違う。上手に商売されていて、ユニークだなと思う。

【久部会長】 今、大阪の市内では宿借りカレーというのが流行っていて、居酒屋の昼間空いている時間を借りてカレー屋さんを営業する手法で、何十店舗もある。ちょっとしたアイデアでそういうものがどんどん広がっていくのだが、そこにはコーディネーターの力がある。空いている時間帯を誰にどうやって紹介するかというのを誰かにコーディネートしてもらわないと、そういうことはできないわけである。

【事務局】 現在進めているインキュベーションセンターの整備で、そういったチャレンジショップのようなものが必要なのではないかとということで検討したのだが、とりあえずチャレンジブースという形でおちやせんのアンテナショップに設けて、個人が作られた商品を委託販売できるような形を考えている。

【久部会長】 商工業と都市計画との連動という話で言えば、駅近くの再開発をすればまちはきれいになるがテナント料は数倍にはね上がり、なかなか入れる店は限られてしまうということにもなってしまう。

【楠下委員】 小さな店でも、例えば今、コンビニでは従来の品物よりも、食料品とか果物とか、その地域のニーズに合うような店が結構増えてきていて、生駒でもそういった小さな店が増えていってもいいかなと思う。

【大原委員】 コンビニの話で言うと、今、コンビニのコーヒーはおいしいので、喫茶店をやっても、駅前で高い地代や家賃を払って、結局コンビニに勝てずに潰れてしまう。そのことが新たな出店を妨げているという事例もある。

【久部会長】 私が商業の活性化をお手伝いするときに申し上げているのだが、物売りだけやったらコンビニに負ける、喫茶店で言えばおたくの喫茶店の付加価値は何ですかと。例えばマスターの人づき合いが良くていろんな相談に乗ってもらえるとか、あるいはゆったりと1時間、2時間過ごせる雰囲気等。付加価値を付けることでコンビニに負けない店を作ることは十分に可能である。

それでは進捗度について、行政はC、我々4人もCであるので、進捗度はCとさせていただいてよろしいか。

(異議なし)

【久部会長】 生駒市は特に市内観光の典型的な市だと思っている。つまり、市民が自分の市を観光するという。そういうのもっとやってもいいのではと思っている。外から呼び込むのではなくて、自分たちが休日に自分たちのまちをめぐる、そんな市民向けのイベントを増やすのも良い。

【中山委員】 私は3カ月ほど前から、交野の方へバードウォッチングに月に1回行っている。そういう自然を使った観光も生駒ならできるのではと思う。

【久部会長】 今流行りの言葉で言うと、エコツーリズムと言って、自然体験を観光にしてしまうというものである。生駒の資源をうまく活用していくというのは、可能性としては大いにある。

【楠下委員】 市内観光という意味では、もっとおもしろい所があるということを感じつかどうかはまず重要だと思う。

【久部会長】 それでは進捗度について、行政はBで、部会はBが3人、Cが1人ということになっている。皆さん、進捗度はBでよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 それでは、第二部会、私たちの担当は全て終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【事務局】 庶務連絡、閉会宣告。

— 了 —